

8-4-4 業務体系WG

1. 主な活動の記録

(1) 活動目標

建設コンサルタントの事業領域のうち、主として、社会資本の建設事業や維持管理・更新事業における建設コンサルタントの役割について、建設コンサルタンツ協会としての基本的な考え方について検討する。

検討成果として、建設コンサルタントの役割に関する基本的な考え方が明確化されることにより、建設コンサルタンツ協会として、様々な発注者、施工者との協議において、一貫性のある意見を発信することが可能になることが期待される。

検討内容としては、平成28年度「要望と提案」に盛り込まれた「修繕工事の技術的課題に対応した入札契約制度の参考例」、「修繕工事」の入札契約方式比較表（案）、さらに「新設工事」の入札契約方式比較表（案）を基本として、各入札契約方針における特性の整理、検討を行う。具体的には、調査・計画、概略・予備設計、詳細設計、施工といった各段階における役割分担、さらに発注者を補完する役割、各入札契約方式のメリット、デメリットとしての品質、生産性の評価内容の妥当性等について検討する。

2. 実績報告

(1) 報告書の共有・行動の推進および更新検討

「今後の橋梁保全事業のあり方に関する懇談会報告書 令和5年1月」について、各地方整備局と「共有」及び「行動」を進めるべく、(一社)日本橋梁建設協会（以下、橋建協）と協働で、地方整備局との懇談会開催のため事前説明、地整への意見交換会について、四国支部対象に開催を予定したが、報告書自体の更新が必要との見解から、実現には至らなかった。

また、報告書には以下の記載事項があり、それら更新の是非について検討を行った。

- ・橋梁修繕事業における具体的な課題および設計・施工者の連携による課題解決

- ・鋼橋においては橋建協との共同勉強会を実施し、双方の課題と連携による課題解決に向けた調達制度

- ・事業や業務特性等に応じた設計の受注者が工事段階で関与する方式(R-1方式)、工事の受注者が設計段階から関与する方式(R-2方式)

(2) 共同研究への参画

別途共同研究WGで実施している「既設道路構造物群の維持管理計画の策定・更新手法に関する共同研究」で新たに検討を始めた「今後の橋梁点検・修繕事業に関する制度設計」について当WGも参画した。具体的な検討は令和8年度から始めるとし、当WGの役割・方針については以下の項目で整理された。

- ・事例収集の幅を広げるため、道路構造物専門委員会への依頼や、建コン本部として業務体系WGから委員会に依頼する。
- ・業務体系WGが建コン本部として、支部や協会、橋建協などと調整し、事例収集や研究成果の取りまとめを担う。
- ・事例収集の負担が共同研究WGメンバーだけに偏らないよう、建設コンサルタンツ協会として広く意見や事例を収集することを提案。共同研究のWGは技術的検討に専念できる体制とする。

3. その他報告事項

- ・特になし

4. 次年度の活動について

(1) R4年度報告書の更新

「2.(1)」で示した報告書の各項目に対して更新の是非を検討し、必要に応じて更新を行う。

(2) 保全事業における新たな業務体系化

「2.(2)」で示した橋梁点検・修繕事業に関し、国総研と意見交換を踏まえながら、新たな業務としての体系化について検討を行う。

(業務体系WG WG長 石村 佳之)